

[成果情報名]資源低水準期におけるタチウオの成長

[要約]本県の重要種であるタチウオ *Trichiurus japonicus* は、2000 年以降急激に漁獲量が減少し、資源の低水準が続いているが、この時期における年齢と成長を明らかにした。その結果、近年のものは最も漁獲量が多かった 70 年代前半のものに比べて若年齢、特に 1 歳時での成長が良いことがわかった。また、雌の成長は雄に比べて良いことが明らかとなった。

[キーワード]タチウオ、年齢と成長、資源水準、雌雄差

[担当機関名]水産試験場 資源海洋部 [連絡先]0735-62-0940

[部会名]水産

[分類]研究

[背景・ねらい]

タチウオは長年にわたり全国 1 位の水揚げを誇っていたが、2000 年以降急激に漁獲量が減少し(図 1)、漁業者、行政および試験場では資源回復に向けた施策の検討を行っている。成長に関する知見は、資源管理を進める上で必要不可欠なものであるが、紀伊水道海域における本種の成長の研究は、最も漁獲が多かった 1970 年代前半になされたものであり、資源水準の大きな変化に伴って、近年の成長が異なっていることが考えられる。そこで本研究は、近年における年齢と成長の関係を明らかにし、過去のものとの比較を行った。

[成果の内容・特徴]

- 1 紀伊水道の小型底曳網などで漁獲された 2004 年から 2007 年までのサンプルを用いて、耳石の横断切片を作成し、年齢査定を行った。
- 2 春季および秋季発生群の雌雄別成長式を求めた(図 2)。その結果、近年のものは 70 年代前半に比べて若年齢時に大きく、特に 1 歳時には肛門前長で 1 割、体重で 5 割程度大きいことがわかり、資源水準による差が認められた(表 1)。
- 3 雌は雄に比べ成長が良く、年齢を増すに従い雌雄の成長差は大きくなることが明らかになった(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

年齢と成長に関する知見は、資源解析や資源管理型漁業を進める上で最も基礎的かつ必要なものであり、資源動向の把握や適正な資源管理方策の策定につながるものと思われる。

[具体的データ]

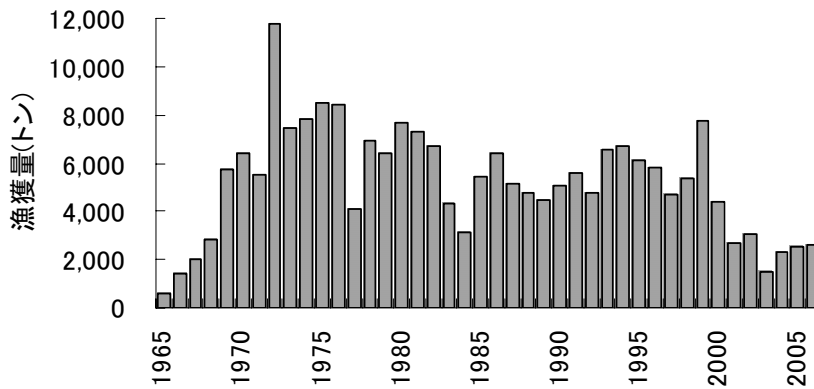


図1 和歌山県におけるタチウオ漁獲量の経年変化

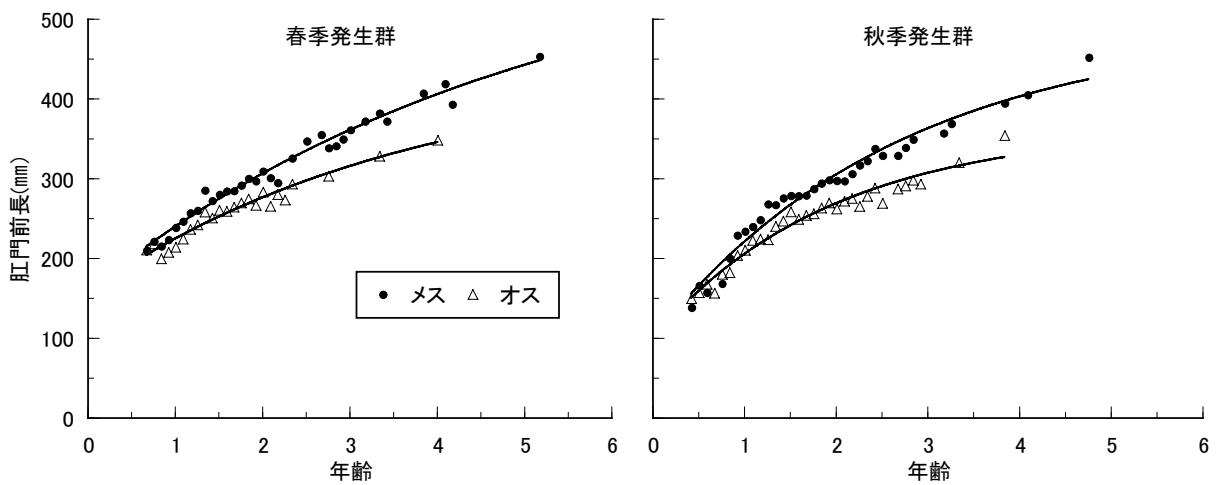


図2 発生群別、雌雄別の年齢と肛門前長の関係

表1 春季発生群（雌雄込み）における成長の年代差

| | 満年齢時 | | | |
|----------|------|-----|-----|-----|
| | 1歳 | 2歳 | 3歳 | |
| 肛門前長(mm) | 本研究 | 224 | 291 | 344 |
| | 70年代 | 198 | 283 | 348 |
| | 年代差 | 26 | 8 | -4 |
| 体重(g) | 本研究 | 175 | 386 | 638 |
| | 70年代 | 117 | 341 | 637 |
| | 年代差 | 58 | 44 | 1 |

[その他]

研究課題名: 漁業資源・漁場調査と情報提供事業、資源管理体制・機能強化総合対策事業

予算区分: 委託、交付金

研究期間: 平成16年～平成19年

研究担当者: 内海遼一

発表論文等: 投稿準備中